

第6学年 国語科学習指導案

2013年6月18日

指導者 小野 紀子

1. 単元名 日本語のひびきを味わう
 教材 「春はあけぼの」

2. この単元の言語活動

古典を読み、心に残った表現を紹介しよう

本単元の言語活動として、古文を読み心に残った表現を見つけて紹介し合う活動を位置づけた。初めに『春はあけぼの』で音読や大まかな内容把握を行った後、自分の心に残った表現を紹介し合わせる。心に残った表現を紹介し合う活動を行う中で、昔の言葉の響きや情景を表す言葉の美しさ、筆者の視点について考えさせる。小学校での学習指導ということを考え、読解中心ではなく音読を多く取り入れたい。音読をする中で子どもたちは昔の言葉の響きを感じることができるであろう。

教科書の学習と並行して、単元の学習の最後に平行読書で読んだ本の中から心に残った表現や内容を選ばせ紹介し合わせる。選んだ理由を書かせる時は、『春はあけぼの』の学習の際に出された視点を意識して書かせる。自分が選んだ古典を交流し合うことによって、昔の言葉や古典への関心が高まることを期待している。

3. この単元にかかる児童の実態

子どもたちは、5年生の『物語』を楽しむの単元で、「竹取物語」や「平家物語」のごく一部について歴史的仮名遣いの文章にふれている。現在の言葉と意味やリズムが違うことを感じ、興味をもって音読していた。本単元では、初めて長文の歴史的仮名遣いで書かれた文章にふれることになる。教材文や詩などを声に出して読むことを好む子どもたちではあるが、言葉の意味や表現されている情景を想像しながら読むまでにはいたっていない。今回の学習では昔の言葉のリズムを感じ情景を想像しながら読ませたい。

4. 単元の指導目標

- ・ 親しみやすい古文について、内容の大体を知り、音読すること【伝国（1）ア（ア）】
- ・ 語感や言葉の使い方に対する感覚について関心をもつこと【伝国（1）イ（カ）】
- ・ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げること【読む（1）オ】

5. 単元の指導基準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・ 古文の響きやリズムを楽しみ、内容の大体を把握しながら音読している。 ・ ・ ・ 伝国（1）ア（ア）	・ 古文を読んで考えたことを発表し合う中で、自分の考えを広げている。 ・ ・ ・ 読む（1）オ	・ 語感や言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持っている。 ・ ・ ・ 伝国（1）イ（カ）

6. 指導計画（4時間）

時	主な学習活動	指導及び留意点	評価・方法
1	<p>○「古典を読み、心に残った表現を紹介しよう」という学習計画を立てる。</p> <p>○『春はあけぼの』を音読し、古文の響きやリズムの良さを味わう。</p>	<p>・古典とはどういうものかを確認した後、心に残った表現を見つけるための学習計画をたてさせる。</p> <p>・教科書の文を音読させる。教師の範読の後、はじめはゆっくりした速さから、だんだん自然な速さで音読できるよう何度も読ませる。</p>	<p>・お気に入りの表現を見つけるために必要な学習活動を考えることができたか。（ノート・発言）</p> <p>・古文の響きやリズムの良さを味わいながら音読をすることができたか。（音読）</p> <p>*伝国（1）ア（ア）</p>
2	<p>○『春はあけぼの』の情景をイメージしながら音読する。</p> <p>○心に残った表現とその理由を考える。</p>	<p>・解説文や写真から書かれている情景をイメージさせる。</p> <p>・『春はあけぼの』の心に残った表現とその理由をワークシートに書かせる。</p>	<p>・情景をイメージしながら音読することができたか。（音読）</p> <p>*伝国（1）ア（ア）</p> <p>・心に残った表現と理由を書くことができたか。（ワークシート）</p> <p>*伝国（1）イ（カ）</p>
3 本時	<p>○『春はあけぼの』の心に残った表現を交流し合う。</p>	<p>・『春はあけぼの』の心に残った表現とその理由を交流させる。</p> <p>・文章表現や筆者の視点について考えさせる。</p>	<p>・考えを交流し合う中で自分の考えを広げられたか（ノート）</p> <p>*読む（1）オ</p>
4	<p>○さまざまな古典の中から、心に残った作品や表現について交流し合う。</p> <p>・単元の学習活動をふりかえり、言葉について考えたことや今後に生かしたいことなどについて考える。</p>	<p>・読んだ古典の中からお気に入りの作品や表現、その理由を書かせる。</p> <p>・全体で交流させる。</p> <p>・単元の学習をふりかえらせ、言葉について考えたことや今後に生かしたいことなどについて考えさせる。</p>	<p>・お気に入りの表現と理由を書くことができたか。（ワークシート）</p> <p>*伝国（1）イ（カ）</p> <p>・言葉について考えたことや今後に生かしたいことについて考えることができたか。（ノート・発言）</p>

7. 本時案

(1) 題目 心に残った表現を交流しよう。

(2) 主眼 『春はあけぼの』の心に残った表現を交流し、昔の言葉と今の言葉の違いを考えたり書かれている情景を想像したりすることによって、昔の言葉に対する自分の考えを広げることができる。

(3) 本時案

学習活動	時間	指導及び指導上の留意点	評価の観点
1. 本時のめあてを確認する。	5	○本時は、『春はあけぼの』を読んで心に残った表現を交流し合うことを通して、昔の言葉について自分の考えを広げる時間であることを知らせる。	
『春はあけぼの』を読んで心に残った表現を交流しよう。			
2. 心に残った表現を交流する。	25	○本時の学習活動を確認する。 ○心に残った表現とその理由を発表させる。 心に残った表現として選んだ理由に以下の内容が予想される。出された表現を大まかに分類しながら理由を黒板に位置づける。 ①言葉のおもしろさ（なめらかなリズム、歯切れの良い言い方、現在と使われ方の違い） ②表現の美しさ（色や音の描写） ③筆者のものの見方（自然、身近な物） ・「をかし」や「いと」・・・本来の意味と使い方を知らせることによって意味や使い方が変わった言葉があることに気付かせる。 ・筆者が見ていた風景と自分たちのまわりにある風景の相違点を比べさせながら、原文で描かれた情景をイメージさせる。	
3. 『春はあけぼの』を音読する。	5	○描かれている情景を想像しながら音読させる。 ・二人組で交互に読ませた後、数名に読ませる。	・考えを交流する中で自分の考えを深めることができたか。
4. 本時の学習を振り返る。	10	○本時の学習をふり返らせる。新たに考えたり気づいたりしたことをノートに記入させる。	*読(1)オ (発言・ノート)

日本語のひびきを味わう

めあて

1. 心に残った表現を書き抜きましょう。

2. 選んだ理由を書きましょう。

春はあけぼの

やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫^{むらさき}だちたる雲の細くたなびきたる。

夏は夜。

月のころはさらなり。やみもなほ、螢^{ぼんぼり}の多く飛びちがひたる。

また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。

雨など降るもをかし。

秋は夕暮れ。

夕日のさして山の端^{ちか}いと近うなりたるに、鳥^{かきす}の、寝^ねどころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。

まいて、雁^{かり}などのつらねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。

日^ひ入りはてて、風の音、虫^{むし}の音など、はたいふべきにあらず。

冬はつとめて。

雪の降りたるはいふべきにもあらず。霜^{しも}のいと白きも、またさらでも、いと寒^{さむ}きに、火^かなど急ぎおこして、炭^{すす}持^もて渡^{わた}るも、いとつきづきし。

昼^{ひる}になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶^{ひき}の火も、白き灰^かがちになりてわろし。

第六学年 国語 板書計画

六月十八日

春はあけぼの

めあて

『春はあけぼの』を読んで 心に残った表現を交流しよう。

本文

*子どもから出された表現に印をつけ、出された考えを書きこむ

○情景描写

- ・自然
- ・生活の様子

○経験がある

経験がない

○言葉

○筆者の視点

- ・をかし
- ・いと

ふり返し

- ・今日の学習でなるほどと思ったこと
- ・新しくわかったことなど